

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ベニズワイガニ

学名 *Chionoecetes japonicus*

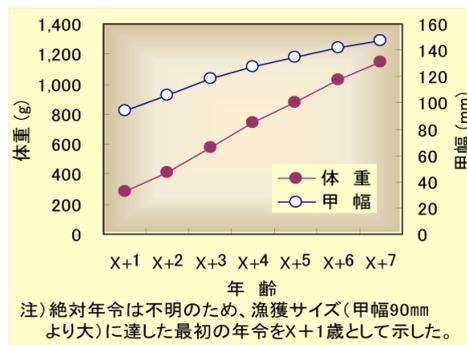
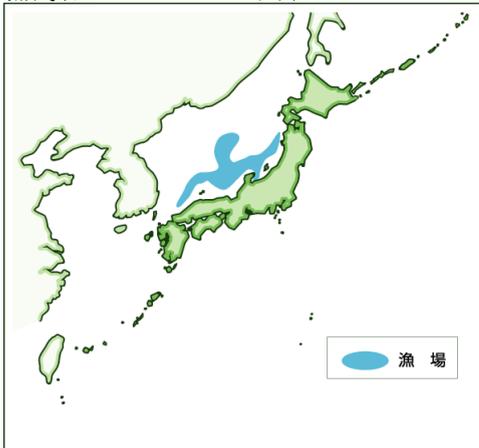
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 10年以上
 成熟開始年齢: 不明
 産卵期・産卵場: 主産卵期は2~4月、隔年産卵で抱卵期間は約2年
 索餌期・索餌場: 主分布域と同海域
 食性: ヤドカリ、カニ(共食い含む)などの甲殻類、微小貝類、イカ類、小型魚類など
 捕食者: 不明

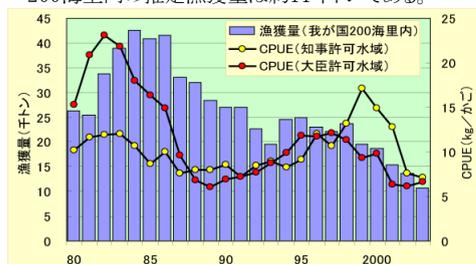


漁業の特徴

かにかごによって漁獲される。東経134度以東の各県地先における知事許可漁業と、東経134度以西及び大和堆・新隠岐堆などの沖合漁場における大臣許可漁業の2つの異なる許可形態で構成されている。近年、日韓暫定水域(ほとんどが大臣許可漁業水域)での操業が実質困難な状況にあり、漁場が狭くなっている。雌ガニは全面禁漁、雄ガニについても甲幅90mm以下は禁漁となっている。

漁獲の動向

漁獲努力量の増大と沖合域への漁場の拡大によって、我が国200海里内外における漁獲量は1983~1984年には52千~53千トンまで増大したが、以後は急速に減少した。1992年以降は22千~26千トンでほぼ安定していたが、1999年以降は再び減少に転じ、2003年の暫定値は約15千トンで、最低の漁獲量となっている。このうち、2003年の我が国200海里内の推定漁獲量は約11千トンである。



資源評価法

漁獲成績報告書を1977年まで遡って解析し、漁場別の漁獲量及びCPUE(1かごあたりの漁獲量)を求め、その経年変化を基礎とした。

資源状態

大臣許可水域では1997年以降、知事許可水域でも1999年以降、CPUEが減少傾向にあり、2003年の暫定値は、知事許可水域7.1kg/かご、大臣許可水域6.6kg/かごまで減少した。両水域の合計では、6.9kg/かごで、ほぼ過去最低の水準にある。

管理方策

知事許可水域、大臣許可水域ともにCPUEの低下が著しく、大臣許可水域では漁獲物の小型化傾向も依然として続いており、資源の悪化が著しいことから、漁獲水準を大幅に引き下げる必要がある。CPUEの低下傾向から、2005年の資源水準は現状の0.6と推定した。さらに、現在水揚げされている小型個体と未熟個体を保護し加入量の増大を図るため、最近年の漁獲量に0.48を乗じた数字をABClimitとした。また、それに安全率0.8を乗じてABCtargetとした。



	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	5,200トン	0.48Ccurrent	-	-
ABCtarget	4,100トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量は1998年以降減少を続け、1999年以降は毎年過去最低を更新している
- CPUEは、大臣許可水域では1997年以降、知事許可水域でも1999年以降減少傾向にある

- 資源状態が急激に悪化しており、全体の資源は低水準、動向は減少である

管理方策のまとめ

- 資源の悪化が著しいため、漁獲を抑制して資源の減少傾向に歯止めをかける
- 日本海の深海底に広く分布する種のため、沿岸各国と共同で資源の管理にあたる必要がある
- 混獲による漁獲対象外の個体の減耗を防ぐため、浸漬時間を長くするような操業形態を取る、または小型個体の多い水域での操業を避けることが望ましい

資源評価は毎年更新されます。